

佐伯市蒲江の小学生が、藻がなくなる「磯焼け」を防ぐため、海藻を取り付けたバッグを海中に投入する活動をしました。

「魚、集まるように」

①藻がなくなった原因として考えられることは何でしょう。

②藻場ができると、どんな効果がありますか。

③魚がたくさんいる海にするためにできることを考えよう。

名護屋小と蒲江小、藻場守る活動



「スポーツアバッジ」を海に投入する児童＝佐伯市蒲江の名護屋小

「豊かな海に手伝い

佐伯市蒲江の小学生が24、25の両日、藻がなくなる「磯焼け」を防ぐため、海藻を取り付けたバッグを海中に投入する活動をした。NPO法人名護屋豊かな海づくりの会（戸高留治理事長・顔写真右）などが2009年から実施している。

参加したのは名護屋小学校（森崎分校を含む）全校児童39人と蒲江小学校5年生19人（25日のみ）。初日に藻場は小魚の餌場や隠れ場になっていた。小児童会長で6年の福田晴心さん（11）は「海上からも海藻が見えた。



「スポーツアバッジ」を海に投入した。1年次から参加している名護屋小児童会長で6年の福田晴心さん（11）は「海上からも海藻が見えた。」

活動の成果が出てうれしい。中学生になつても海の魚が集まるこごみ拾いなどをし、豊かな

となどとを学習

と話した。

戸高理事長によると、20

年ほど前は藻がたくさんあ

ったが、6年前には全く

なくなった。原因ははつきり

しないが水温変化やウニ、

ブダイ、アイゴなどの食害

が始めてから徐々に増え、

約6割の面積で藻が回復し

た。今後も続けていきたい」としている。

(2014年4月29日朝刊18面)